

資料 2

(仮称) 鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略(案) に対する意見提出様式

意見募集期間 令和6年8月2日(金) から令和6年8月16日(金) まで

お名前 ※必須	しみずくにあき 清水 国明
ご住所 ※必須	福島県東白川郡鮫川村 大字赤坂東野字葉貫13-2
電話番号 ※必須	0247-49-3344 090-4882-7961
ファクス番号	0247-49-3366
メールアドレス	npo@asubi.jp
勤務先 (または学校名)	あすび NPO法人 明日飛子ども自立の里
意見内容	<p>広報8月号でパーブリックコメントの実施を知り、感じたことを提出させていただきました。</p> <p>清水が鮫川に引っ越してから36年と8ヶ月になりますが、人口減少をはじめ、様々な変化がありました。よいことも、さびしさを感じることも。しかし変わらず鮫川の素晴らしさの基盤にあるのは人の優しさにつながりだと思います。優しさは、人によって感じ方も違い定義するのは難しいですが、お互いが理解し合えた時の支え合える力は鮫川の大きな財産だと感じています。ふるさと留学(山村留学)の運営も、鮫川だからできたと感謝しています。</p> <p>『人口ビジョン』の中にある、労働人口減少や消費市場縮小などによる悪循環は、まさに現実的で大きな課題になっています。『デジタル田園都市構想素案』にある通り、知識を出し合っ一丸となって取り組むことが必要だと感じています。村で生きる価値をひとり一人が実感できるためには、村を愛して暮らし、村を大切に思う人たちとふれあい、思いを伝え合う機会が必要だろうと感じました。</p>

このビジョンや素案が活かされ、これからの若い世代が村をより輝かせてくれるためには、さらなる具体的手段や方策が必要になると思います。

「地産地消と地域環境で稼げるむらづくり」の中に移住・定住について触れていましたが、空き施設を利用した山村留学の受け入れや、不登校やひきこもり、ニート状態の若者が鮫川で生活し、就学就労に向けた経験を積めるフリースクールの運営も、移住者の増加や雇用機会の創出につながるのではないかと考えました。これは一例ですが、みんなで知恵と力を出し合いながらにかを創出することで、絆や思いやりの輪が一層広がり、人口の増加にもつながると思います。

鮫川の将来を大きな希望を持って見守りたいと思っています。